林修×朝日新聞

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局 広告特集
協力 株式会社ワタナベエンターテインメント

よくわかる

林修の特別授業

【今日のテーマ】
協同組合
第11回

協同組合の役割やメリットについて、おなじみ林修先生がわかりやすく解説する特別授業。
今回は、日本有数の人気を誇る、愛媛県にあるJAの農産物直売所(JAファーマーズマーケット)を紹介します。

どうして愛媛県にあるJAファーマーズマーケットに
市外や県外からもたくさんの人が訪れるの?

兼業農家や小規模農家のやる気を引き出し
魅力的な売り場づくりにつなげているからです。

農業を核とした にぎわいづくり

地産地消で地域を元気に・豊かに　さいさいきて屋(JAおちいまばり)

望月　最近は産地直送の野菜や果物が人気ですね。近所の道の駅では、週末になると産直コーナーがいつもにぎわっています。

林　地元の農産物で、生産者の顔も見えるという安心感が人気の理由でしょう。JAおちいまばり(愛媛県)の「さいさいきて屋」というJAファーマーズマーケットの場合、年間の来店者数が100万人を超えるそうです。今治市の人口が約16万人ですから、これには驚きますね。毎日午後2時ごろには、1,800平米の売り場を埋め尽くす商品の多くが売り切れて棚には空きが目立つそうですから、そのにぎわいぶりがうかがえます。

望月　そんなにたくさん地元産をそろえられるということは、今治にはきっと農家が多いんでしょうね。

林　それが逆だそうです。さいさいきて屋がスタートした2000年ごろ、今治でも農業人口の減少や担い手の高齢化による生産力の低下が問題になっていました。そのことに危機感を抱いたJAでは、市場に出せない規格外品でもいい、ごくわずかな量でもいいので出せるものを出してほしいと農家に声をかけてまわったそうです。小規模でも意欲のある農家の力を生かして、商品の充実や売り場の活力づくりにつなげているんですね。

望月　驚きました。同じように担い手不足に悩む地域にとってはヒントになることも多そうです。

林　納品する品目や量、価格は原則として会員(農家)が自分で決めるので、もっと良いものを、他では出せないものをという競争意識が自然に生まれます。会員それぞれの意欲と技術の向上につながり、規模を拡大して兼業から専業農家になった例もあるそうです。

望月　それは消費者にとってもうれしいですね。うちの近所にこういうお店があったら毎週でも行きたいです。

林　さいさいきて屋は単なる小売店ではなく、あくまで農業振興のための施設という位置付けだそうです。JAファーマーズマーケットに併設のカフェや食堂では地元の農産物をふんだんに使ったメニューを提供していますし、営農指導の窓口や新規就農者を育てる体験農園もあります。残念ながらまだ就農者は増えていないそうですが、きっとこれまでと同様アイデアと実行力で乗り越えてくれるのではないかと思います。大いに期待したいですね。

1品あたりは少量だが品数が多いことが特徴

温かみのある手書きポップで農産物の魅力を伝える

カフェで食べた果物を改めて購入して帰る人も

これからも、直売所を核とした「小さな農業チーム」で地域を元気にできたらと思っています。時代の変化に目を向けつつ、今治の古き良き伝統や食文化は、今後も継承していきたいです。

さいさいきて屋　統括店長　木原嘉文さん

さいさいきて屋では、これからも
地産地消にこだわり、農業人口を
増やす努力を続けていくそうです。

農家の人たちもお客さんも
みんなが笑顔になれる場所で
あり続けてほしいですね。

✔今日のまとめ　**地域が持続可能であるために農業が果たす役割は大きい。**

予告　協同組合 第12回は1月下旬、
「地域の復興を支える」をテーマに掲載の予定です。

BS朝日「林先生が世の中のギモンを徹底解説『よくわかる! なっとく授業』」制作中!

東進ハイスクール 講師
林 修先生

はやし・おさむ／東京大学法学部卒業。東進のTVコマーシャルのセリフ「今でしょ!」が2013年新語・流行語大賞に。受験生から絶大な信頼を得る傍ら、多数のTVレギュラーを抱え多忙な日々を送る。

生徒
望月まりなさん

もちづき・まりな／2002年9月22日生まれ。滋賀県出身。7歳からダンスを始め、国内の大会だけでなく、海外の大会でも多くの優勝経験がある。ダンスと学業との両立を目指す女子高校生ダンサー。現在は朝日新聞大学入試キャンペーンイメージキャラクターを務める。

耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ